ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.158

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

ヌサ(祭壇)

村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)

屋外で祭祀(さいし)をおこなう祭壇を、ヌサやヌササン、チパ、イナウチパなどと呼びます。カムイ(神々)への贈りものとなるイナウ(木幣)が立ちならぶもので、各チセ(家屋)の外に設けられるヌサや浜、水汲み場、コタン(集落)の境などで恒常的に使われるヌサは常設され、その他、祭祀が必要となった場所で臨時につくられるヌサもあります。ヌサは祈りの場であり、カムイの魂を送る場、先祖供養の場でもあります。

ヌサの形態は地域等によって違いがありますが、白老ではチセの東側の窓、ロルンプヤラ(神窓)から少し離れた場所にポロヌサ(大きい祭壇)とポンヌサ(小さい祭壇)を対で設けます。ポロヌサには、その家々で大切にしているカムイが複数祀られる他、イヨマンテ(クマの霊送り)の際のクマの頭骨なども立てられます。ポンヌサは、ヌサコロカムイ(祭壇を司る神)を祀るとともに、ムルクタウシ(糠を捨てる場)でもあるので、食物・穀物の神ともいわれます。大正期の白老、熊坂家のヌサの記録では、ポロヌサには海の神、海岸の神、川尻の神、狐の神、山猟の神など十一のカムイが祀られた、とあることから旧アイヌ民族博物館にあったヌサや民族共生象徴空間(ウポポイ)のポロチセにあるヌサは、この熊坂家のヌサを参考にするとともに、これまで儀礼の指導を頂いたエカシ(長老)達の助言から、十四のカムイを祀るとともに、ポロヌサ、ポンヌサとは別にシンヌラッパヌサ(先祖供養の祭壇)が常設されています。

イラスト/山丸ケニ

イヨマンテの際のヌサは、新しいイナウが立ち並び、文様入りの莫蓙(ござ)にクマ神への土産となる花矢、団子に干しサケ、宝物の漆器や矢筒、刀が飾られ、お酒に料理などさまざまな供物が並ぶとても豪華なヌサでした。チセコロカムイ(家を守護する神)の送りでは、魂を解かれたチセコロカムイをヌサに納め、舟の送りでは、ポロト湖岸に特設したヌサの前で舟神の魂を解いた後にポロヌサの裏に納め、先祖供養ではシンヌラッパヌサの前に供物を捧げ、先祖に届くよう祈ります。丁寧に、丁寧に言葉を連ね祈る場所、ヌサはカムイの世界、先祖の世界と私たち人間の世界がつながる窓口となる場であることを感じさせてくれます。

かつて、チセ毎にあったヌサの多くは姿を消しましたが、各地のアイヌ協会などによって共同のヌサが設けられ、地域の文化活動の拠り所となっています。 J

次回のテーマは「タラ(荷縄)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やまるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。